

ワークシート③-1 UDの対象

下線にあてはまる語を書きましょう。

名前 _____ 解答 _____

利き手の UD

日本人の約 10%が左利きだといわれており、様々な場面で不便を感じている。

ひとつのデザインですべての人が使えるようにという UD の目的から、右利きでも左利きでも使用することが可能なデザインが必要である。

左利きの人のことも考えた利き手の UD は、利き手が使えなくなった右利きの人に対する助けにもなり、どちらかの利き手の人だけの専用品にしないことは多くの人に対するメリットになる

年齢に対する UD

乳幼児から小学校入学の直前までは身近な場所に危険が潜んでいる。例えば、バスやエスカレーターの段差。この危険をなくすために、バスであればノンステップバスと呼ばれる段差が最小限のバスが運行されている。乳幼児だけではなく、様々な人の障害となる段差を取り除くことができる UD である。

小学校でも利き手を選ばないハサミなど、どのような人でも楽に使用することが可能な文房具がおかれている学校が増えた。そのほかにもスロープ、エレベーターが設置されている学校も多い。

大人になり、社会に出ると多種多様な事情を抱えた人と出会う。多くの人に対応した UD の例として電車の優先席がある。この席は以前までは高齢者のみが使用できたシルバーシートであったが、障がい者や妊婦の方が優先して利用できるようになった。多方向から使いやすさを追求した UD が多くみられる。

高齢になると体を自由に動かせなくなり、体に負担がかかるため、それらを解決するための UD が多くみられるようになる。信号機などには LED のサインや音の誘導で情報を伝達している。

様々な年代に応じた UD が工夫されているが、それらは特定の人に特化したものではなく、中心に考えられたデザインで、多くの人に簡単に扱えるようにしたものである。